

## KINAN COUPE DE AACCA 第 4 戦第 1 ステージ

山本雅道選手がスプリントを制し優勝 リーダージャージを獲得

●KINAN COUPE DE AACCA第4戦第1ステージ 112.2km(5.1km × 22 周)



東海地方のロードレースシリーズ「KINAN COUPE DE AACCA」は4月29日、2016年 シーズン第 4 戦の第 1 ステージを国営木曾三川公園・長良川サービスセンター前特設コースで開催された。メインレースの 1-1 クラスは、逃げメンバーによるスプリントとなり、シエルヴォ奈良 MIYATA-MERIDA レーシングチームの山本雅道選手が優勝。リーダージャージに袖を通した。

毎月 1 戦のペースで実施される本シリーズだが、ゴールデンウィーク前半に行われる第 4 戦は 2 日間計 3 ステージで争われる。各ステージの優勝争いはもちろん、全ステージトータルで競う個人総合時間賞も設定。また、出場する全選手が均等にレース機会を得られるよう、前のステージでリタイアまたはタイムアウトになった場合でも、ステージ優勝者のフィニッシュタイムから 10 分を加算し次ステージへの出走を認めるなど、このシリーズ 独自のルールが採用されている。

今回は、昨年全日本選手権ロードレース・アンダー 23(23 歳未満)王者の中井路雅選手(京都産業大学)が日本チャンピオンジャージで出場しているほか、国内トップチーム からも多くの選手が参戦。ホストチームである UCI コンチネンタルチーム「KINAN Cycling Team」からは、伊丹健治、阿曾光佑、野中竜馬、中西重智の 4 人がスタートラインに就いた。

29th April 2016

第 1 戦から第 3 戦までと同じ会場で行われた第 1 ステージは、5.1km の周回コースを 22 周。北西からの強い風が影響し、周回前半は向かい風、後半は追い風となるコンディションがレースをどのように左右するかが焦点となった。

レースは 1 周目から中井選手を中心に数名が逃げを狙う。2 周目には中井選手、中西、岸崇仁選手(シエルヴォ奈良 MIYATA-MERIDA レーシングチーム)が集団から抜け出し、そのままリードを開始。その後、小渡健悟選手(シエルヴォ奈良 MIYATA-MERIDA レーシングチーム)、柴田雅之選手(龍谷大学)、安田京介選手(京都産業大学)が合流した。

先頭の 6 人とメイン集団との差は 30 秒前後で推移していたが、レースが中盤に入ると徐々に広がっていった。最大約 1 分 10 秒差となったのを境に、メイン集団でもペースが上昇。単独または数選手で前方をうかがう動きが表れるなど、レース後半にかけて活性化していった。

終盤に入っても協調体制は崩さず、粘りを見せていた逃げグループだったが、残り 2 周で崩壊したメイン集団から山本選手、野中らが合流。そして、周回後半には追い風を利用して小渡選手がアタックを決め、数秒リードしてラスト 1 週の鐘を聴いた。

向かい風区間で小渡選手は吸収され、ラスト 1km を切ったところで中井選手がアタックするも厳しいマークにあい失敗。勝負はスプリントに委ねられた。

最後の直線は上り基調。最終コーナーをトップで抜けたのは野中。スプリントタイミングを図って加速する。だが、その脇から抜けたのは山本選手。野中に 1 車身差をつけてトップでフィニッシュラインを通過した。

かつてはヨーロッパでプロ選手として活躍。2011 年シーズン限りでの引退後、4 年間のブランクを経て、昨年 KINAN Cycling Team で現役復帰を果たした山本選手。今年からはシエルヴォ奈良 MIYATA-MERIDA レーシングチームの監督兼選手としてレースを転戦している。勝利を決めた最終局面を振り返り、「(チームメートの)岸選手がよく動いてくれて、僕は何もせずフィニッシュに備えられた。最後も野中選手の動きに合わせただけ。ちょっと申し訳ない気分にもなったけど、勝負である以上勝つことが重要」と、古巣相手にも勝利にこだわって走ったことを強調した。第 2 ステージ以降のリーダージャージ保持については「厳しいんじゃないかな」と述べつつも、トライする姿勢を見せている。

KINAN 勢最上位となった 2 位の野中は、「スプリントは(山本)雅道さんに完全マークされてしまっていた」と振り返った。ステージ優勝こそ逃したものの、このステージ序盤から逃

げ続けた中西とともに総合上位にランクイン。第 2・3 ステージでの総合首位浮上を もくろむ。

風が選手たちを苦しめたこのステージ。53 人が出走し、完走が 22 人というサバイバルレースとなった。

大会 2 日目となる 30 日は、ツアー・オブ・ジャパンいなべステージのメイン会場でもある「いなべ市梅林公園」に会場を移す。第 2 ステージは、1.5km の個人タイムトライアル。続く第 3 ステージは、1 周 1.5km を 40 周で競うクリテリウムが行われる。勝負強さとともに、総合力が問われる 1 日となりそうだ。そして、総合首位の証であるリーダージャージの行方が大いに注目される。

Coupe de AACA 第 4 戦第 1 ステージ 1-1 クラス(112.2km)結果<sup>[SEP]</sup>1 山本雅道(シエルヴォ奈良 MIYATA-MERIDA レーシングチーム)2 野中竜馬(KINAN Cycling Team)<sup>[SEP]</sup>3 安田京介(京都産業大学)<sup>[SEP]</sup>4 岸崇仁(シエルヴォ奈良 MIYATA-MERIDA レーシングチーム)5 佐野千尋<sup>[SEP]</sup>

KINAN COUPE DE AACA 第 4 戦は野中竜馬が総合優勝

第 3 ステージではニールプライド勢が上位を独占

●KINAN COUPE DE AACA第4戦

第2ステージ 1.5km個人タイムトライアル

第3ステージ 60km(1.5km×40周回)

1st May 2016

東海地方のロードレースシリーズ「KINAN COUPE DE AACA」は4月30日、2016年 シーズン第 4 戦の第 2、3 ステージを三重県いなべ市のいなべ梅林公園で開催。メインの 1-1 では、KINAN Cycling Team の野中竜馬が全 3 ステージのフィニッシュタイム合算で争う個人総合時間賞に輝いた。また、第 3 ステージの 60km クリテリウムでは、ニールプライド南信スバルサイクリングチームが上位を独占している。

2 日間計 3 ステージで行われているシリーズ第 4 戦。4 月 29 日に国営木曽三川公園・長良川サービスセンター前特設コースで行われた第 1 ステージ(112.2km)では、山本雅道選手(シエルヴォ奈良 MIYATA-MERIDA レーシングチーム)が優勝。リーダージャージに袖を通して

大会 2 日目はまず、第 2 ステージの 1.5km 個人タイムトライアルが行われた。ツアー・オブ・ジャパンいなべステージのメイン会場でもある、いなべ市梅林公園内に設定された 1.5km のコースは、スタート直後は下り、その後周回の半分以上が上りの難コース。選手たちは 30 秒おきにスタートし、己との戦いに臨んだ。前日の第 1 ステージでは、強風の影響で半数以上がリタイアまたはタイムアウトとなったが、最終完走者から 10 分のタイム加算のうえ、第 2 ステージ以降への出走を許可する救済措置がとられた。

第 1 ステージ同様、ここでも山本選手と野中が熾烈なステージ優勝争いを繰り広げた。先に出走した野中が 2 分 17 秒で暫定トップに立つと、今度は山本選手が野中のタイムを 3 秒更新。ただ 1 人平均時速 40km を上回り、スピードの違いを見せ付けると同時にリーダージャージを防衛した。

午後に行われた第3ステージは、個人TTで使われた1.5kmのコースを40周する計60km で争われた。総合優勝争いに大きな注目が集まるとともに、このステージのみのスポット 参戦も認められるなど、大会のフィナーレにふさわしい盛り上がりを見せた。

レースは、野中での総合逆転を狙う KINAN 勢が序盤からペースをコントロール。アンダー 23(23 歳未満)ロード日本チャンピオンの中井路雅選手ら京都産業大学勢が立て続けに逃げ狙いのアタックを繰り出したこともあり、ハイペースで推移。1 周目から脱落者が 現れるなど、サバイバルレースの様相を呈した。

そんな中、15 周目に波乱が起きる。リーダージャージを着用する総合首位の山本選手が 集団から遅れ、そのままリタイア。総合争いの大きな動きが生じることとなった。

中盤に入ると、スポット参戦のニールプライド勢 3 人がペースアップ。そこに野中が続き、4 選手が先行を開始。やがて野中が遅れはじめ、ニールプライド勢がチームタイムトライアル状態で快調に飛ばした。

フレッシュな状態で走る先頭 3 選手と、これまで 2 ステージをこなしてきた選手たちとの脚の差は歴然。最後までペースを落とすことなく進んだニールプライド勢がそのまま終盤も駆け抜け、最後はジェゾン・ヴァラド選手(フランス)が先頭でフィニッシュラインを通過。ブルノー・ゲゼ選手、ロイック・デリアック選手(フランス)と続いた。

その後方では、総合優勝をかけて野中がフィニッシュを目指した。追いつけてきた山下貴宏選手(シエルヴォ奈良 MIYATA-MERIDA レーシングチーム)と協調し、周回をこなしていく。最後はマッチスプリントとなり、山下選手が先着。5 位となった野中は、第 2 ステージまでのアドバンテージを生かして総合優勝を決めた。

上位 3 選手から大きく引き離された野中は、総合優勝こそ決めたものの悔しさを隠せない。「何とかニールプライド勢 3 人に食らい付きたかった。こんな形での総合優勝で申し訳ない」と反省の弁。それでも、スタート直後からアシスト陣がレースを動かし、野中でリーダージャージを奪取という、チームにとっては狙い通りの結果を残した。

激しいレースとなったこともあり、第 3 ステージの完走者は 7 人。経験や実績のある選手たちをもってしても、攻略の難しい 2 日間全 3 ステージであった。

国内トップチームの参戦や、全国各地からの出場者で賑わいを見せるこのシリーズ戦。次戦(第 5 戦)は、5 月 15 日に国営木曾三川公園・長良川サービスセンター前特設コースで行われる。

Coupe de AACA 第 4 戦第 2 ステージ 1-1 クラス(1.5km 個人タイムトライアル)結果

1 山本雅道(シエルヴォ奈良 MIYATA-MERIDA レーシングチーム) 2 分 14 秒  
(40.11km/h)

2野中竜馬(KINANCyclingTeam) +3秒

3安田京介(京都産業大学) +6秒

4雨乞竜己(シエルヴォ奈良MIYATA-MERIDAレーシングチーム) +8秒

5樋口峻明(京都産業大学) +9秒

Coupe de AACA 第 4 戦第 3 ステージ 1-1 クラス(60km クリテリウム)結果

1ジェゾン・ヴァラド(ニールプライド・南信スバルサイクリングチーム) 1時間43分 53秒

2ブルノー・ゲゼ(ニールプライド・南信スバルサイクリングチーム) +0秒

3ロイック・デリアック(ニールプライド・南信スバルサイクリングチーム)

4山下貴宏(シエルヴォ奈良MIYATA-MERIDAレーシングチーム) +1分55秒

5野中竜馬(KINAN Cycling Team)

Coupe de AACA 第 4 戦 1-1 クラス 個人総合成績

1野中竜馬(KINANCyclingTeam) 4時間48分53秒

2山下貴宏(シエルヴォ奈良MIYATA-MERIDAレーシングチーム) +1分25秒

3中井唯晶(京都産業大学) +5分6秒

4中西健児(同志社大学) +9分16秒

個人総合を争う全ステージ参戦者で最終ステージの完走者はたったの4名というサバイバルレースとなった。